

# 個性伸びゆく 学校を目指して

面倒見が良い学校と定評のある、福岡舞鶴高等学校・福岡舞鶴誠和中学校。今年で創立100周年を迎えた歴史ある同校では、部活動や大学進学など、多彩な分野で生徒が大いに力を伸ばしています。その校風や特色ある学び、教育への熱意を取材しました。

## 大切にしているのは 伝統と生徒の自主性

川島学園の歴史は、大正11年に開校した川島裁縫女学校から始まります。創設者の川島アクリ氏は、厳しくも温かい指導を行い、裁縫科教員など多くの優れた人材を輩出。地域における近代の女子教育を牽引しました。当時培われた、知・情・意の調和のとれた人間教育を目指すという理念は、今日まで脈々と受け継がれています。

平成7年には附属の福岡舞鶴誠和中学校を開校し、中高一貫教育を始動。ちなみに、現在の福岡舞



大正11年度の記念すべき第一回卒業記念写真。前列左が創業者の川島アクリ氏。福岡市の西公園で撮影されたもの

鶴という校名は、開校当初、校舎が福岡市舞鶴城内町にあったこと由来するそうです。そんな伝統ある同校で、30年以



2

1



3

1.2. 教師は科目や授業内容によって、電子黒板と従来の黒板を使い分けています。数学など問題を解く過程が重要な学習は、板書が向いているのだそう。3. 食堂「舞 TERRACE」にて。今年度から中学生の昼食は、食堂の業者が調理したお弁当、舞ランチになりました。（現中2・3年生は希望制）。食育の一環として導入したそうです

上にわたり教育に携わっているのが國友秀三校長。令和元年度に現職に就き、長年の願いだった風紀検査の廃止を決めました。「服装などの校則そのものをなくす、という意味ではありません。検査があるからではなく、自らの判断で決まりを守るような、自主性を育てたい」と思っていたんです。

## 一人ひとりの 可能性を広げるために

個々の力を真に伸ばしていくためには、強制することから脱皮しなくてはならない。國友校長は、そう話します。「本来、大人の役目は子どもをサポートすること。大切なのは、彼ら自身のやる気なん



4



5



6

です。それにいつでも応えられるよう、学習や活動の場を準備しておくのが私たちの仕事です」。代表的な取り組みが、放課後から21時までの夜間と土曜に、図書館を開放して行う自習室。学校の教材が利用できたり、常駐するOB・OGの九大生に質問ができたりと、しっかり学習できる環境が整っています。テスト前に通う生徒が多いのはもちろん、普段でも日100人前後もの利用があるのだそう。

部活動の後に自習室へ向かう生徒も多数。同校の部活動は18時30分までと定められていて、学業と両立しやすくなっているのです。その反面、部の練習時間が短いようにも感じますが、毎年多くの運動部・文化部が県大会や九州大会へ出場し、全国大会で入賞することもあるほどの活躍を見せています。部活生たちは自ら積極的に、



学校法人川島学園  
福岡舞鶴高等学校・  
福岡舞鶴誠和中学校  
國友秀三校長

4. 創立100周年記念事業の一環として、今年度から制服をリニューアル。好みに応じてスタイルが選べます。5. 競技かるた部には、九大生も指導に来てくれるそう。この夏は高3生の橋立周佳さんが、福岡県選抜メンバーとして全国大会へ出場します。6. 家庭科の授業で全校生徒が華道を学ぶ同校。華道部は、昨年1月の全国大会で6位に入賞するなど、各種コンクールで優秀な成績を収めています

かつ集中して日々の練習に取り組む、限られた時間を確実に実りあるものとしているのです。また、年に8回実施する舞プランは、生徒たちの視野や興味を広げるための独自のプログラム。アートや外国語、スポーツなどの多彩

な講座から、好きな分野を選んで学べます。これは同校の教師が特技や趣味を生かして考案するもので、毎年内容が変わるのだとか。「年に8回だから、戻込みすることなく、やってみたいことにチャレンジできるんです」と、國友校長。学校生活のさまざまな場面において、自ら選び、考え、行動する生徒たち。こうして育った自主性が、彼らの力を引き出していくのです。教師は生徒との対話を大事にしなから、それぞれの成長を温かく見守っています。

## 誰もが安心して通える 学校づくり

授業を覗いてみると、まず目に入るのが電子黒板です。平成30年度に、特別教室を含む全教室に二括導入されました。教師のPCから資料や写真などをそのまま映し出すことができ、画面への書き込みや拡大も可能。授業の効率が大幅にアップし、生徒の学習意欲も高まったそう。さらに全館Wi-Fi環境完備、一人一台タブレット活用など、教育のICT化を着々と進めています。

### info

学校法人川島学園  
福岡舞鶴高等学校  
福岡舞鶴誠和中学校

福岡市西区徳永 1110-2  
☎092-806-3334  
<http://fmaizuru.edu.jp/>